

平成31年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

アカデミックで自由闊達な校風のもと、文武両道の実践を通じて、知・徳・体のバランスがとれ、豊かな人間性と心身のたくましさを備えた生徒、さらには、高い志とチャレンジ精神によって自らの進路を切り開き、社会貢献を行う努力を惜しまない生徒を育成する。また、グローバル化が急速に進む中で、社会の課題に関心をもち、国際社会のリーダーとしてふさわしい次のような能力や態度を育む。

- ・多角的な視点を持ち、ものごとを洞察する力、
- ・主体的に課題を解決しようとする態度、
- ・コミュニケーション能力、
- ・自己を確立するとともに、互いの違いを認め合い尊重しようとする態度

さらに、Society5.0において求められる力についても視野に入れて取り組む。

①文章や情報を正確に読み解き、対話する力、②科学的に思考・吟味し活用する力、③価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探求力以上の「育てたい生徒像」をベースにして、「北野生の『凄さ』を『見せる』学校づくり」に オール北野 で取り組む。

2 中期的目標

1 高い学力の育成

教員、生徒がともに真摯に学ぶ環境を追求し、高度な知識と教育スキルを兼ね備えた教員集団を確立するとともに、授業を通じて生徒が学問に対する興味・関心を高め、自ら主体的に学び、さらに高度な学びに向かってチャレンジしていく意欲を高める。生徒に育成すべき資質・能力として、生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を常に意識して取り組む。

(1) アカデミックな授業 ～北野生の「凄さ」が「見える」授業づくり～

教員の専門的知識及び教育スキルの向上を図るため、授業改善を進める。授業においては言語活動を重視するとともに、ICTをより効果的に活用できるよう取り組む。学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の実現と観点別学習状況の評価に意を用いるものとする。

- ア 授業に係る研修機会や授業相互参観等の充実を図り、教職員の授業スキルの一層の向上を図る。イ 教員の専門的知識を研鑽する機会の充実を図る。
- ※ 学校教育自己診断（教職員向け）「教科指導について、教職員と日常的によく話し合っている」の肯定的評価が2021年度実績で90%以上（29年度85.7%→30年度83.8%）
 - ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」の肯定的評価が2021年度実績で85%以上を維持（29年度80.9%→30年度90.1%）
 - ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「授業などでコンピュータやプロジェクト、電子黒板を活用している」の肯定的評価が2021年度実績で95%以上を維持（29年度96.1%→30年度96.8%）
 - ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「授業は興味深く満足できるものである」の肯定的評価が2021年度実績で90%以上（29年度82.8%→30年度87.8%）

(2) 主体的に学ぶ意欲・態度の育成

- ア 生徒が自学自習を進めやすくなるような方策を検討し、合わせて適切なアドバイス等を行う。イ 生徒の自己実現、進路目標設定のためのキャリア教育の充実を図る。
- ※ 生活アンケート（生徒向け）により把握する「平日の一日平均自主学習時間」が「2時間以上」と回答する生徒の割合を2021年度実績で50%以上（29年度46.5%→30年度48.4%）、「3時間以上」と回答する生徒の割合を同30%以上（29年度25.2%→30年度25.7%）
 - ※ 生活アンケート（生徒向け）により把握する「休日の一日平均自主学習時間」が「4時間以上」と回答する生徒の割合を2021年度実績で38%以上（29年度40.4%→30年度31.4%）、「5時間以上」と回答する生徒の割合を同30%以上（29年度28.6%→30年度23.7%） *質問項目の変更により目標をそれぞれ下方修正
 - ※ ①「知的世界の冒険」、②「職業ガイダンス」、③「学部・学科ガイダンス」各々の生徒アンケートにおける肯定的評価を2021年度実績で各々95%以上を維持する。（①29年度87.3%→30年度86.2%、②29年度99.0%→30年度100.0%、③29年度95.5%→30年度97.3%）
 - ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「学校は進路についての情報を知らせてくれる」の肯定的評価を2021年度で90%以上を維持（29年度88.9%→30年度92.8%）
 - ※ 生徒進路希望現役実現率（3年第2回11月進路希望調査の第一志望校の現役合格率）が2021年度実績で45%以上（29年度44.2%→30年度34.6%）

2 豊かな人間性と心身のたくましさの育成

本校のあらゆる学習活動、学校行事、部活動やその他の課外活動等を通じて、互いの違いを認め合いつつ協力し、切磋琢磨する中で、高い志を持って何事にもチャレンジしていく心身を育成する。

(1) 学校行事・部活動・課外活動

- ア 学校行事や部活動において、生徒がその力を十分に発揮できるよう組織的に支援していく。
- イ 各種コンクール、コンテストや課外での行事等への積極的参加を働きかけていく。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「文化的行事（体育行事）に楽しく参加している」の肯定的評価の平均値が2021年度実績で90%以上（29年度89.6%→30年度90.9%）
 - ※ 生活アンケート（生徒向け）における「部・同好会加入率」が2021年度実績で92%以上を維持（29年度94.9%→30年度94.5%）
 - ※ 全国レベル、近畿レベルのコンクールやコンテスト、競技大会等への参加者数について、2021年度に前年実績を維持（29年度45人9団体→30年度48人11団体）

(2) 人権教育・教育相談の充実

- ア 「人権が尊重された教育活動」を根底にすえて、すべての教育活動において、「自分を大切に、他者を大切に、その中で自分も大切にされる」集団づくりを進めていく。
- イ 生徒や保護者に対するきめ細やかな教育相談ができるよう、情報の共有や体制づくりを一層進める。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定的評価が2021年度実績で80%以上を維持（29年度79.4%→30年度83.4%）
 - ※ 「担任以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる」の肯定的評価が2021年度実績で60%以上（29年度50.4%→30年度59.6%）
 - ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」の肯定的評価が2021年度実績で75%以上（29年度58.8%→30年度72.3%）。
 - ※ 学校教育自己診断（教職員向け）「すべての教育活動において、人権を尊重する姿勢で指導が行われている」の肯定的評価が2021年度実績で80%以上（29年度62.5%→30年度66.1%）

3 次代のグローバル・リーダーの育成

国際的な視野を育むとともに、グローバルな社会課題を多角的に学び、積極的にその解決策を提言できる生徒を育成するため、海外や大学との連携、またWWL(World Wide Learning)等の取組の充実を図る。英語の4技能をバランスよく育成して、英語によるコミュニケーション能力のさらなる伸長を図る。

(1) コミュニケーション力、議論する力、プレゼンテーション力の育成

- ア 授業を中心とするさまざまな学習活動の中で、自分の考えをまともな表現で力、相手の主張を理解し自分の意見を交えてしっかりと議論ができる力を育成する。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がよくある」の肯定的評価が2021年度実績で90%以上を維持（30年度76.0%→30年度90.7%）。

(2) 海外の機関との連携、高大連携の充実

- ア 高大連携を通じて、国際的な視点で大学の研究の最先端に触れ、国際的な社会課題への関心や、その課題解決に向けた意欲を高める。
- イ 海外の大学や高校と連携し、アジアからの留学生との交流や留学生の支援を得る機会を充実させる中で、異なる文化や社会への理解を深め、国際的な視野を広げる。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「国際理解や世界情勢について学ぶ機会がよくある」の肯定的評価が2021年度実績で80%以上を維持（29年度69.9%→30年度81.2%）
 - ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「本校で海外からの高校生との交流会、学内留学、海外研修、留学生とのディスカッション等、英語を使って海外の人と交流したり学んだりする機会に参加したことがある」の2021年度実績が65%以上（29年度61.0%→30年度57.5%）
 - ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「国際的な社会課題や政治の動きに関心がある」の肯定的評価が2021年度実績で80%以上（29年度66.0%→30年度77.6%）
- 以上のすべての活動を通じて、生徒の学校満足度を高める。
- ※ 学校教育自己診断（生徒向け）「北野高校に来てよかったと思う」の肯定的評価が2021年度実績で90%以上（29年度88.9%→30年度87.8%）

4 【課題研究】以下のテーマを掲げ、課題研究（校内研究）に取り組む。 *PT（プロジェクトチーム）、WT（ワーキングチーム）

(1) 校内研修の活性化を通じた教職員の力量形成

1 (1)に掲げた授業改善を主テーマとした校内研修、首席、指導教諭を中心とした初任期教員（1～概ね3年め）に対する力量形成支援、教育Cのリーダー研修、10年経験者研修、アドバンスセミナー等の校内への成果還元等を通して、教職員同士が学び合う機会を多く創出するとともに、教職員の力量形成における、多様な「カリキュラム・リーダーシップ」のあり方について実践的な研究を進める。

(2) 「知」の継承・発展 *本項の取組には、校内（GLHS；グローバルリーダーズハイスクール）PT、および、WTが分掌、学年と連携して携わる。

- ア 現在の教職員がいつまでも本校に在籍するわけではないことを前提に、これまで蓄積されてきた「経験知」を次世代に計画的に継承する仕組みと仕掛けについて研究する。
- イ 蓄積されてきた「経験知」を複合的に活用して教育界喫緊の課題に先進的に取り組む。具体的には以下の2点について、2020年度に指針を示す。
- ①高校教育、大学教育、入学者選抜の一体的改革の動向と今次の学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、進路部と教務部が連携協働して、北野高校独自のAP（アドミッション・ポリシー）、CP（カリキュラム・ポリシー）、DP（ディプロマ・ポリシー）を定め、その上で、「入口（入学）から出口（卒業、進学）まで、そして未来（キャリア）へ」と一貫した北野生の「育成スタンダード」（仮称）を策定する。
 - ②学校を取り巻くデータのリサーチ（IR）とそれを活かした広報戦略を経営課題の中核の一つに据え、これに経常的に取り組む校内組織のあり方について研究する。

(3) 「部活動休養日（ノックラプデー）の有効活用 *本項の取組には、校内（GLHS）PT、および、WTが分掌、学年と連携して携わる。

平成30年度からの部活動休養日（ノックラプデー）の設定を、文武両道を真に実現する絶好機と捉え、制度を安定的に定着させつつ、それを学習時間の増加や生徒のアウトリーチ活動（校外発表活動、ボランティア、地域・社会貢献）の充実につなげるよう実践研究を進める。なお、国・府の働き方改革の議論の動向を注視する。

*休養日の使い方を部活単位で生徒に考えさせ、主体的・計画的な学習やアウトリーチ活動を計画実践させる。（主に副顧問がアドバイザーに就く）

*アウトリーチ活動は、例えば、地域美化活動、小中への出前チューター（生徒による学習支援）、地域のお年寄りとの交流などに部活単位で取り組むことを想定。年1～2回。

(4) 学習環境のさらなる充実

- ア 指導部と保健体育部が中心となって生徒に働きかけを行い、生徒の主体的な実践を通して清々しく過ごせる学習環境の創出・充実に取り組む。
- * <指導部>生徒が自らよき生活習慣、生活規範を確立することにより、学習・部活動、その他の活動に健康的にバランスよく取り組み、充実したものになるように、HRやその他の機会を捉えて啓発活動を行う。また、SNS上でのいじめやトラブルの生起を踏まえ、情報リテラシーの育成にも取り組む。
 - * <保健体育部>生徒保健委員会等の生徒主体の活動を尊重し、望ましい学習環境を自らの行動によって支える意識を高め、すべての生徒が進んで美化活動等の環境整備に取り組むことができるよう支援を行う。また、防災教育の取組を引き続き進める。
- イ 「北野らしい」授業の継続のため、予算の効果的・効率的な執行に努める。また、老朽化してくる教材機器・設備の更新を計画的に実施することを検討する。あわせて、学校のもう一つの「顔」とも言える、トイレ等、生活環境改善の可能性を探る。
- ※ (1)～(4)については、各年度計画において適切な取組指標を定め、段階的に実績を積み重ねたうえで、各年度末に研究成果を明らかにする。

府立北野高等学校

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和元年11月実施分〕	学校運営協議会からの意見
<p>◎「高い学力の育成」に関する項目カッコ内の数字は肯定的評価（H30年度→H30年度→令和元年度）（％）</p> <p>○結果 （生徒）授業は興味深く満足できるものである。（82.8→87.8→90.3） 授業の難易度、進度は適切である。（難易度90.4→88.7→91.8、進度83.6→87.1→89.6） 教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い。（80.9→90.1→92.2） 授業では、実験・観察・実習などの時間がたくさんある。（59.3→74.5→80.2） 学習の評価は適切に行われている。（91.5→91.1→92.4） （保護者）学校が行う成績評価は適切である。（73.1→62.6→70.6） （教職員）各教科において、授業、指導方法の研究や教材の工夫を日常的に行っている。（85.7→93.6→96.4）</p> <p>○分析と今後 ・学習指導に関する生徒の肯定的回答が総じて増加し引き続き高い水準となった。授業づくりへの教職員の努力と工夫が実を結び、生徒たちに伝わっている、と自負している。今後もアカデミックな授業づくりに目標高く取り組みたい。 ・各教科で授業、指導方法の研究や教材の工夫を日常的に行っている状況は望ましく、今後も定例教科会議や公開授業、授業参観の充実、観点別評価とその方法の研究等に取り組む。 ・成績評価、とりわけ観点別評価に関する保護者の理解も進んできた。知識量だけでなく、思考力・判断力・表現力や学習に向かう主体性等を多面的、総合的に評価する方針を今後も継続し、研究を続けていく。</p> <p>◎「豊かな人間性と心身のたくましさの育成」に関する項目</p> <p>○結果 （生徒）北野高校では、他の学校にない特色ある教育活動が行われている。（81.4→88.8→91.1） 文化・体育行事に楽しく参加している。（文90.6→93.0→93.6、体→88.5→88.7→86.5） ホームルーム活動が活発で楽しい。（88.0→84.4→83.1） HRや講演会などで将来の進路や生き方について考える機会がある。（91.9→92.7→96.5） 悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い。（79.4→83.4→89.8） 人権の大切さについて学ぶ機会が多い。（58.8→72.3→74.4） 命の大切さや社会のルールやモラルについて学ぶ機会がよくある。（61.5→73.3→78.1） （教職員）本校では、他の学校にない特色ある教育活動が行われている。（85.7→91.1→82.1）</p> <p>○分析と今後 ・学校行事、ホームルーム活動への満足度が高く、生徒が総体として充実した毎日を送っていることがうかがえる。将来の進路や生き方について考える機会や、悩みや相談に親身になって応じてくれる先生の存在についての肯定的回答も増えており望ましい。 ・人権の大切さ、命の大切さや社会のルールやモラルを学ぶ機会については、スコアが上がっているもののまだまだ十分ではない。北野生の使命として、将来は必ずそれぞれの分野において、リーダーとして社会貢献が求められる。豊かな人間性、社会性を育てるためにも、ホームルームでの講演、講話だけでなく、授業、行事や部活等、日常的な場面でそれらを意識させる機会が増えるよう努めていく。</p> <p>◎「次代のグローバル・リーダーの育成」に関する項目</p> <p>○結果 （生徒）授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がよくある。（76.0→90.7→92.1） 国際理解や世界情勢について学ぶ機会がよくある。（69.9→78.1→81.9） 国際的な社会課題や政治の動きに関心がある。（66.0→73.0→76.3） 何事にも自主的、主体的に取り組むように努めている。（77.8→83.5→86.3） 入学してからボランティアや地域貢献活動に参加したことがある。（15.0→29.6→33.4）</p> <p>○分析と今後 ・一昨年度来、生徒が自ら考え発表する機会を授業の中でいかに充実させていくか、各教科・科目で研究を続けている。その成果が「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がよくある」の好スコアに繋がっている、と考えている。 ・WWLの課題研究や各種講演会、学内留学、海外スタディーツアー、国際交流事業、留学生長期受け入れ、ボランティアや地域貢献活動等への主体的な参加が、意識の高揚や参画意識、将来を見据えた具体的なアクションにまで繋がっていくよう取組の深化を図りたい、と考えている。</p> <p>◎その他の項目</p> <p>○自然災害への対応 ・（生徒）学校で地震や火災などの災害が起こった場合、どのような行動をとればよいか、具体的に知らされている。（73.2→84.7→85.9） ・（保護者）子どもは、地震や台風のなどの場合にどのように行動すればよいか、学校から知らされている。（81.6→65.5→67.9） 保護者の回答の16.6%が「わからない」であったことを踏まえても、保護者の不安が一定ある。地域のハザードマップを反映した防災、減災対策と危機対応のまとめを改めて保護者に情報提供する。</p> <p>○保護者回答に関して 今年度、保護者回答の肯定率が29項目中24項目で上昇した。学校の教育方針や教育内容に対し、おおむね理解が進んだものとする。より一層の理解と協力を得られるよう、学校と家庭を有機的に繋ぐ仕掛けを考えていきたい。</p>	<p>第1回 学校運営協議会（6月14日）</p> <p>●協議・意見交流 ○大学入試・カリキュラムなど、新しいことが多く入ってきた。先生方もお忙しいとは思いますが頑張ってください。ディスカッションを重視した授業も大事だが、それをやれるだけの基礎をしっかりと作る授業もあれば。そして大きな声で発表できるように。 ○人間力について、社会的にどう振舞えばいいかというのは、授業とは別のアクティビティで育まれるのではないかと。部活動で先輩の指導を受ける、あるいは社会に揉まれる、その中で自分の意見を言う、という機会は大事。いろいろなイベントで頑張っている人を認める仕組みがあればいい。課題研究発表会で優秀賞などで報いるなど… ○大学では特色入試を行っている。高校でどのようなことを頑張ったかというプルーフを求めている。優秀な学生諸君に対しては、その頑張りを認めてあげることが大事。 ○中学校でも思考力・判断力・表現力は大事。発表活動は年を追うごとに段々と上達する。安心安全は中学校でも大切。知らない人を校内で見かけたら、顔を見て大きな声で挨拶するのが抑止力になる。また何かがあれば職員が動ける態勢を作っている。 ○若い人は総じておとなしく、失敗を恐れる。小学校でも子供を守って下さる。失敗しても大人が手厚くフォロー。子どもの時期こそ失敗をしておかないと。外の人たちと交流する機会が必要では。 ○人間力と言えば、コミュニケーション力。子供が中学時代にもまずは挨拶をすることから始めようということになったが、極端な話、学校の先生の方が挨拶をしないという声があがった。自発的に挨拶をするという指導をしていただければありがたい。</p> <p>第2回 学校運営協議会（10月26日）</p> <p>WWLに関して ○持続可能な社会につながる良いテーマ。文理融合も大きな目標の一つ。 北野にとっても大事だと思った。 ○大学入試に特化して文系理系に分かれて効率的に勉強するというのはわかるが、その後の伸びを考えると、高校でのバランスのとれた勉強は大事。文理融合は大学でも推進しようとしている。 ○これからの時代、多様性が大切。海外研修で違った見方、考え方を体験することはとても大事。工夫を重ねてさらにいいものにしてほしい。 ○Society5.0はいいことばかりでない。食糧問題、水の問題、環境問題など深刻になってくる。WWLの目標とも密接に絡んでいる。こういうところにも気をつけて進めていっていただければと思う。</p> <p>第3回学校運営協議会（2月7日）</p> <p>●協議・意見交流 ○先日初めて課題研究発表会を参観。生徒の熱意を感じた。成果品についても非常に工夫されており、楽しかった。自身が建築のことをやっているのでも、それらに関連したものを見ていた。机上で調べたものだけでなく、出向いて調べたものがあったのでよかった。10年15年後の将来につながりそうな発想でよかった。 ○吉野彰先生の講演会では同窓会、学校、PTAが連携をして良い取組ができた。150周年を見据えて連携していかなければならない中、好例となった。吉野先生講演会で先生への生徒の質問が鋭くて感心した。 ○課題研究の発表会を見ていて、いい質問が増えてきた印象がある。教員の思惑と合致していて、うまい循環ができていっているのかなと思う。目標を非常にうまく達成していると思った。 ○遅刻・塾の問題が気になる。 ○今年度の評価の上昇に驚いた。次年度の計画もこの数値を保つことは非常に難しいとは思いますがこの勢いを継続できれば素晴らしいと思う。大学で壁に当たったとき、自身で打破できない人たちが多くなっている印象がある。北野ではクラブなどをはじめ、いろんなことをやっていて力強い。北野の学校行事、部活動、リーダーを育てるという一連の活動は素晴らしい。ぜひ次年度もこの調子でいってほしい。 ○通勤のバスでよく北野の生徒と一緒にいるが、高齢者に席を譲るなど、マナーが良い。また、昨今の状況で言うと、中学ではLGBTの生徒の制服の問題も考えないといけないと感じている。ぜひ今後とも情報交換させていただきたい。 ○吉野先生のような影響力のある方が母校におられる、そして、そういう方の講演を聞ける機会がある環境はすごくありがたいと思った。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 高い学力の育成	<p>(1) アカデミックな授業 ～北野生の「凄さ」が「見える」授業づくり～</p> <p>ア 教職員の授業スキルの向上</p> <p>イ 研鑽機会の充実</p> <p>(2) 主体的に学ぶ意欲・態度の育成</p> <p>ア 自学自習の推進</p> <p>イ キャリア教育の充実</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内での授業公開週間を例年通り2回実施 公開研究授業の実施 他校の初任者等教員との授業力向上研修の実施 校内の教員相互の授業見学を実施。 授業、評価等に係る教員研修の開催 <p>(1) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 他校や校外における授業研修等への参加者を増やす。 研修等への参加者と他の教員との間で研修内容等の共有化を図る仕組みをつくる。 教員の専門的知識を研鑽する機会のあり方について検討する。 <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業を通じて教科・科目の学習への興味・関心を高める努力をさらに進める。 自学自習の推進方策についての検討を深める。(主体的な学習習慣の定着、学習の質量両面での充実) 図書館の設備や資料の活用を働きかけ、生徒の自主的、自発的な読書活動や学習活動の充実を支援していく。 <p>(2) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「知的世界の冒険」「職業ガイダンス」「学部・学科ガイダンス」の実施 進路目標の早期設定に向けた取組の充実 	<p>(1) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 相互授業見学を実施した教員の割合 92%以上 (30 年度実績 93.3%)。 学校教育自己診断(教職員向け)(以下「教職員自己診断」)「教科指導について、教職員で日常的によく話し合っている」の肯定的評価が 87%以上 (30 年度実績 83.8%)。 教職員自己診断「評価とその方法について、教職員で日常的によく話し合っている」の肯定的評価が 70%以上 (30 年度実績 69.4%)。 学校教育自己診断(生徒向け)(以下「生徒自己診断」)「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」の肯定的評価が 85%以上を維持 (30 年度実績 90.1%)。 生徒自己診断「授業などでコンピュータやプロジェクト、電子黒板を活用している」の肯定的評価 95%以上を維持 (30 年度実績 96.8%)。 生徒自己診断「授業は興味深く満足できるものである。」の肯定的評価が 90%以上 (30 年度実績 87.8%)。 <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活アンケートの「平日の一日平均自主学習時間」が「2 時間以上」を 50%以上 (30 年度実績 48.4%)、「3 時間以上」を 28%以上 (30 年度実績 25.7%)。 生活アンケートの「休日の一日平均自主学習時間」が「4 時間以上」を 35%以上 (30 年度実績 31.4%)、「5 時間以上」を 27.0%以上 (30 年度実績 23.7%)。 図書館の働きかけを通して、貸出冊数 (30 年度実績 5,848 冊) や授業での使用が増えるかどうか、データを取って検証する。 <p>(2) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「知的世界の冒険」「職業ガイダンス」「学部・学科ガイダンス」各々の肯定的評価 95%以上を維持 (30 年度実績は 86.2%、100.0%、97.3%)。 生徒自己診断「学校は進路についての情報を知らせてくれる」の肯定的評価が 90%以上を維持 (30 年度実績 92.8%)。 進路希望現役実現率を 40%以上 (30 年度 34.6%) とする。 	<p>(1) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 97% (◎) *ほぼ全員が授業参観週間や公開研究授業の機会を活用した。 91.1% (◎) *30 年度実績を 7.3%上回った。教員の意思疎通を図る意識ができてきた表れ。 76.7% (◎) *30 年度実績を 7.3%上回り、成果は表れ、観点別評価が定着してきた。 92.2% (◎) *30 年度実績、目標共に上回り、教職員の授業づくりの努力が結果に表れた。 96.1% (○) *目標を達成した。授業の一形態として活用が定着している。 90.3% (◎) *30 年度実績、目標ともに上回り、生徒が受けてよかったと思う授業になった。 <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 51.8% (○)、36.2% (◎) *30 年度実績、目標をともに上回った。 38.9%、29.1% (◎、◎) *30 年度実績を大きく上回る。休日の時間の使い方に進歩が見られた。 3696 冊 (△) *30 年度実績より大きく下がったのは、英語科が授業で行っている「多読」において、教員が本を準備することで、生徒が洋書を図書館で借りる手間を省いたため。 <p>(2) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 順に 95.5%、99.0%、97.0% (◎) *卒業生の協力を得て今後もよりよいガイダンスをめざしていく。 93.6% (◎) *30 年度実績、目標共に上回り、進路部、学年の情報発信の成果が表れている。 進路希望現役実現率 41.2% (○)
2 豊かな人間性と心身のたくましさの育成	<p>(1) 学校行事・部活動・課外活動</p> <p>ア 学校行事や部活動</p> <p>イ 各種コンクール等への参加</p> <p>(2) 人権教育・教育相談の充実</p> <p>ア 人権基礎教育推進</p> <p>イ 教育相談の充実</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校行事が生徒にとってより魅力的なものになるように不断の改善を図る。 <p>(1) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が課外への活動に積極的にチャレンジしていくよう、情報提供等を含め、働きかけを活発にする。 <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校における人権教育の体系化を図る。 教職員の人権意識をさらに高めるための研修機会等について検討する。 <p>(2) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の状況についての共有化を一層図る。 SC との連携やケース会議の充実、関係機関との連携を一層図っていく。 教育相談にかかる校内体制づくりを推進する。 	<p>(1) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒自己診断「文化的行事(体育行事)には楽しく参加している」の肯定的評価の平均値が 90%以上を維持 (30 年度実績 90.9%)。 生活アンケート(生徒向け)における「部・同好会加入率」92%以上を維持 (30 年度実績 94.5%) 全国レベル、近畿レベルのコンクールやコンテスト、競技大会等への参加者数が平成 30 年度実績を維持 (平成 30 年度実績 48 人 11 団体)。 <p>(2) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒自己診断「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定的評価が 80%以上を維持 (30 年度実績 83.4%)、「担任以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる」の肯定的評価が 60%以上 (同 59.6%)。 生徒自己診断「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」の肯定的評価が 75%以上 (30 年度実績 72.3%)。 教職員自己診断「すべての教育活動において、生徒の人権を尊重する姿勢で指導が行われている」の肯定的評価が 80%以上 (30 年度実績 66.1%)。 	<p>(1) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 90.1% (○) *文化 93.6%、体育 86.5% 89.7% (△) *1、2 年生の平均値 37 人 3 団体 (△) *部活(陸上、将棋、剣道、山岳)、アカデミア(物理五輪、数コン、英語ディベート他)。 <p>(2) ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 順に 89.8% (◎)、65.7% (○) *生徒に寄り添う指導が全体としてできつつある。引き続き、教育相談の充実、保健室との連携、生徒の内面に触れる生徒指導の充実に取り組む。 74.4% (△) *人権講演会(12月)をはじめ、LHR 等をも活用して学ぶ機会の充実を図る。 78.6% (△) *昨年度より 12.5%上回る。しかし、もっと高くあるべき項目。次年度は 80%以上をめざす。
3 次代のグローバル・	<p>(1) コミュニケーション力、議論する力、プレゼンテーション力の育成</p> <p>ア 議論できる力等の育成</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 「課題研究」「学内留学」「国際情報」「海外研修」等を中心に、英語を含めて、ディベート(即興型)やプレゼンテーション等の学習と実践を行う。また、あらゆる学習活動の中で、自分の考えをまとめ、発表する機会を充実させる。 	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒自己診断「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がよくある」の肯定的評価が 85%以上を維持 (30 年度実績 90.7%)。 	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 92.1% (◎) *30 年度実績、目標共に上回り、成果が表れた。(1 年 95.9%、2 年 91.6%、3 年 89.2%)。全国即興型ディベート大会で初めてベスト 8 進出。

府立北野高等学校

<p>リーダーの育成</p>	<p>(2) 海外の機関や大学との連携 ア 高大連携 イ 海外との連携</p>	<p>(2) ア ・国際的な社会課題への関心と課題解決に向けた意欲を高めるため、国の WWL 事業をも活用して高大連携をさらに進める。 ・大学の留学生との交流機会の拡大や、課題研究における生徒支援をさらに進める。 (2) イ ・海外の大学や高校との連携をさらに進め、生徒の国際経験を深めるとともに、課題について研究し、成果を発表する。</p>	<p>(2) ア、イ ・生徒自己診断「国際理解や世界情勢について学ぶ機会がよくある」の肯定的評価が75%以上を維持(30年度実績81.2%)。 ・生徒自己診断「本校で海外からの高校生との交流会、学内留学、海外研修、留学生とのディスカッション等、英語を使って海外の人と交流したり学んだりする機会に参加したことがある」の肯定的評価が65%以上(30年度実績57.5%)。 ・生徒自己診断「国際的な社会課題や政治の動きに関心がある」の肯定的評価が80%以上(30年度実績77.6%)。</p>	<p>(2) ア、イ ・81.9% (◎) *英語、地公の授業での取組のほか、WWL 関連の取組の成果が表れた。 ・66.3% (◎) *WWL 事業の一環としてアジア架け橋プロジェクトで2名を北野で初めて長期受け入れ。国際感覚醸成に大いに役立った。 ・76.3% (△) *主体的態度を身に着ける仕掛けが必要。社会科や課題研究、WWL の取組で関心を持たせる。</p>
<p>4 課題研究</p>	<p>(1) 校内研修の活性化を通じた教職員の力量形成 (2) 「知」の継承・発展 ア 「経験知」の継承 イ 「経験知」の活用と喫緊の課題解決 ①北野生「育成スタンダード」(仮称)策定にむけた展望 ②企画会議、校務運営委員会、校内(GLHS)PT・WTの活動 (3) 部活動休養日の有効活用</p>	<p>(1) ・1 (1) ア・イ再掲 ・初任期教員(1～概ね3年目の教員)に対する力量形成支援を管理職、首席がチームで行う。 ・教育Cのリーダー研修、10年経験者研修、アドバンスセミナーや、大教大での研修等に参加する教員が研修成果の校内還元を行う。 (2) ア ・蓄積された「経験知」の次世代継承に向け、昨年度に引き続き、 ①各分掌、委員会業務の円滑な推進 ②「指導と評価の年間計画」の実行に取り組む。 (2) イ ①「育成スタンダード」(仮称)の策定に向け、 ・教務部、進路部がイニシアティブをとって、高・大・選抜の一体的改革および学習指導要領改訂について教職員に提要し、 ・これからの北野生に身に付けさせたい学力と、そのために必要なカリキュラムについて議論を深める。 ②企画会議、校務運営委員会、校内PT、WTにおいては、以下の業務に特に意を用いる。 ・引き続き、「学びやすく、働きやすい」年間行事計画について考える。 ・学校教育自己診断、生活アンケート等を分析し、そのデータ結果から、具体的なアクションプランを提案する。 ・IR (Institutional Research) の考え方を入れ、オール文理となった本校の今後の広報(魅力発信)について具体案を提示する。 ・保護者とのコミュニケーション媒体(インフォメーション、WEB ページ)のさらなる充実を図るとともに、学校行事の周知案内の充実を検討する。 (3) ・部活動休養日の活用状況を部活ごとに検証し、学習、アウトリーチ活動の両面で可能な部分から実行に移す。 ・平成30年度末に策定した「北野高等学校部活動に係る活動方針」が適正に運用されているかどうか検証する。</p>	<p>(1) <取組指標> ・初任期教員に対する力量形成支援のプログラムを計画的に行う。 ・教育C研修等参加教員による成果発表を職員会議、学校掲示板等で行う。 <成果指標> ・初任期プログラムへの参加、教育C研修への参加と校内発表が有意義なものであったかどうかを質問紙調査等により把握する(肯定的評価90%を目安とする)。 (2) ア <取組指標> ①年度当初に新旧担当の引継ぎをスムーズに行い、以降は、新担当がPDCAと次年度の引き継ぎを意識しながら業務を進めること。 ②各教科で議論して作成した「指導と評価の年間計画」を引き続き実行し、観点別による学習評価を通じて、さらなる改善、深化を図ること。 ③知識量だけでなく、思考・判断・表現や学びに向かう主体性等を多面的、総合的に評価する観点別評価の考え方や評価の方法を新年度に改めて生徒・保護者にプリントで周知するとともに、学年集会、懇談等、説明する機会の充実を図る。 (2) イ <取組指標> ①-1 教務部・進路部合同の会議を前後期各1回程度行い、「たすき掛け」で互いの守備範囲を共有すること。その際、「Information on Kitano」「北野高校の取組」「将来構想WTアクションプラン」「教科・科目基本方針と予定」や、進路部発行の諸資料の内容を共有分析すること。 ①-2 学習指導要領の改訂をテーマとした教職員研修を1回以上設定すること。 <成果指標> ・深めた議論を踏まえ、指針として取りまとめる。 <取組指標> ②-1 年間行事計画が「学びやすく、働きやすい」計画になっているかどうかを常に検証する。 ②-2 WT会議を計画的に行い、校内(GLHS)PT、及び、教職員に会議の成果(アクションプラン等)を提案する。 ②-3 保護者とのコミュニケーション媒体の効果をPTA役員と協力して企画会議で検証する。 <成果指標> ・WTの活動が有意義なものであったかどうかを質問紙調査等により把握する(肯定的評価90%を目安とする)。 (3) <取組指標> ・年度末に部活動休養日の定着度及び活用の状況を部活ごとに取りまとめる。 <成果指標> ・制度の定着100%、学習面での取組開始100%、アウトリーチ活動の取組開始50%、活動方針の適正な運用</p>	<p>(1) <取組の進捗> ・公開研究授業の実施(7人延べ8回)(○) ・大教大「教師の学び舎」受講(2人延べ2回)(○) ・センター研修成果の校内還元を実施(掲示板や職員会議にて) <成果の把握>聞き取りにより参加教員から概ね肯定的な評価を得た。(○) (2) ア <取組の進捗> ①分掌主任が業務の可視化、整理統合を指揮し、日々の業務の円滑な推進に取り組んだ。(○) ②「指導と評価の年間計画」を引き続き実行。(○) 今後も継続。 ③観点別評価の考え方や評価の方法については生徒92.4%(1.3%アップ)、保護者70.6%(8%アップ)と理解が進んできた。周知がされてきたものと感じる。今後も研究を進めていく。(◎) (2) イ <取組の進捗> ① -1 将来構想WTでの議論などに加え、必要に応じて校長、教頭が助言している。(○) ② -2 教育Cの指導主事を招き、11月に実施。(○) ① -3 8月に1年生全員が英語4技能を測る外部テストを受検した。入試に活用されなくとも普通の授業の四技能重視の方向性が正しいことが教員・生徒にも実感でき意義は大。(○) <取組の進捗> ② -1 校務運営委で概ね好ましい変更であったと検証。(○) ② -2 将来構想WT、データ分析WTはほぼ年間稼働。(○) ② -3 PTAメールの活用を促進できた。PTAからの要望も入れた。(○) <成果の把握>聞き取りにより担当教員から概ね肯定的な評価を得た。(○) (3) <取組の進捗> 部活動活動方針の策定に歩調を合わせて、各部活で今年度活動を検証中。ノークラブデーを活用したアウトリーチ活動は組織的に進めるには至っていない。(△) <成果の把握></p>

府立北野高等学校

	<p>(4) 学習環境のさらなる充実</p> <p>ア 指導部、保健体育部、道徳教育推進教師、部活動総顧問の働きかけ</p>	<p>(4) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導部と保健体育部が中心となって生徒に働きかけを行い、生徒の主体的な実践を通してみなが清々しく過ごせる学習環境の創出・充実に取り組む。 <p><指導部>望ましい生活習慣、生活規範の確立に向けた生徒への継続的な啓発活動、いじめ防止、情報リテラシーの育成</p> <p><保健体育部>校内美化等の環境整備に向けた生徒保健委員会等への活動支援、地域(新北野地区)・PTA と共に創る防災教育を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育推進教師の位置づけをこれまでから本校で大切にしてきた自主自律の精神の涵養に資するよう取り組む。 <p>(4) イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業第一主義」支える予算の効果的執行 ・教材機器・設備の更新、プール、部室棟、トイレ等生活環境の改善に向けた中期的検討 	<p>(4)</p> <p><取組指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・啓発活動や委員会への活動支援が現に生徒に自主自律の精神を涵養し、生徒の望ましい主体的行動を促しているかどうかを検証する方策を具体的に講じること。 <p>(具体的な指標;挨拶、時間厳守、規律・ルールへの遵守(授業規律、服装、携帯電話の使用等)、モラル・マナーの向上(登下校のマナー、公の場での行動のあり方、校内美化・緑化、清掃の状況、地域防災への参画等)</p> <ul style="list-style-type: none"> *世の中の規範、モラル、マナーがそのまま北野高校の「ルール」となる。 *その意味や社会的意義を理解したうえで自律的・主体的に行動する。 *学校の品格は自分たちで築き自分たちで守るもの。 <p><取組指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校会計事務の適正化を踏まえ、教員と事務職員が、単なる分業ではなく、それぞれの専門性を生かしつつ、必要な情報を収集共有し互いに知恵を寄せて、よりよい教育活動に向けた創造的提案を行うこと。さらには、具体的な改善事例を一つ以上あげること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制度の定着ほぼ100%、アウトリーチ活動は自治会、特定の部活、有志による。 <p>(○)</p> <p>(4) ア</p> <p><取組の進捗></p> <ul style="list-style-type: none"> 一昨年度、学校教育自己診断に追加した以下の項目のスコアを継続的に検証。 ・(生徒)何事にも自主的、主体的に取り組むように努めている。(77.8%→83.5%→86.3%) (◎) ・(生徒)校則や社会のルール、モラルをきちんと守っている。(93.8%→95.3%→96.3%) (◎) ・学校の清掃美化にしっかりと取り組んでいる。(79.6%→88.5%→89.3%) (○) <p>(4) イ</p> <p><取組の進捗></p> <ul style="list-style-type: none"> ○改善事例として、3年教室プロジェクター一部更新ならびに特別教室プロジェクターの一部を更新 (○) ○WWL、GL 予算の効果的な支出ができた。 ○創立 150 周年記念事業にて同窓会にお願いしていた、老朽化の激しいクラブ部室の建て替えをしていただくことが決定した。
--	--	--	--	---